

フィールドワークを通して環境について学ぶ

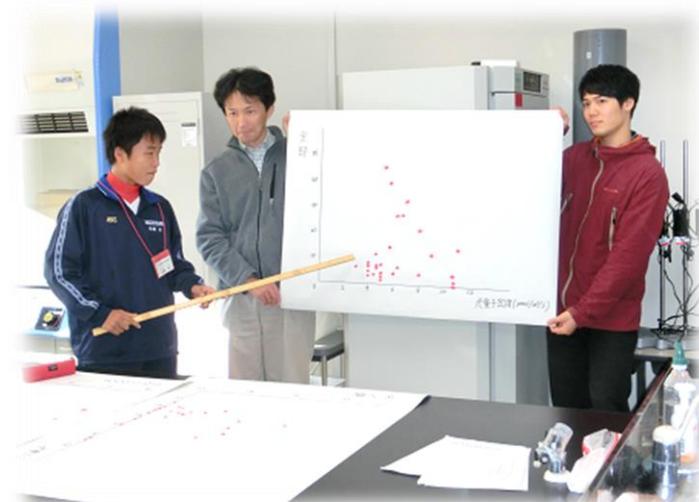
10月15日(土)2年生普通科の8名が岩手県立大学総合政策学部で、フィールドワークを通じた生態学について学びました。担当していただいたのは、総合政策学部の島田直明先生です。「野生の花咲く林をつくるためには」というテーマで、カタクリやエビネ、サイハイランなどの草花の生育環境を調査しました。カタクリやエビネは岩手では珍しくなく、雑木林ではよくみられる草花ですが、全国的には数が少ない貴重な草花です。午前中は岩手県立大学の周辺にある山の斜面で、草花の調査を行いました。午後は調査内容をまとめ、雑木林に見られる植物がどのような生育条件を好むかを話し合い、グラフにまとめて発表しました。そして研修を通して、草花の生育・観察する林にするためには、どうすることが大切なのかを考えました。岩手県立大学の総合政策学部は、経済や行政などの文系のイメージが強いのですが、環境コースでは森林や水質、空気などの環境を調査する様々な取組がされていることを知るなど、進路学習の上でも貴重な機会となりました。



今回調査した草花(エビネ)



フィールドワークでは大学生がわかりやすくサポートしてくれました



調査結果をグラフにして発表しました

参加した2年生の感想

- 初めてSSHの研修に参加し、データを取ったりして新鮮だった。植物が成長するために必要な4つの要素をもとに実際に雑木林に行き、データを取るのが楽しかった。また、データをグラフにしてみると意外な関係性を発見することが面白く、考察を考えるのがとても楽しかった。今回の研修は自分の進路に対する意識が高まる良い機会だった。
- 今回のフィールドワークに参加して、私はまだ将来のやりたいことが定まっていないので、とても参考になりました。研修の後に大学生から話を聞きました。県立大学の総合政策学部は1・2年生の時に様々な分野を学ぶことがわかり、そのような体験談も自分の将来のために活かしていきたいと思います。